

Slovenia Monthly December 2020

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2021年1月6日



～12月の主なポイント～

- 内 政： 年金者党、連立与党から離脱
- 外 政： ロガル外相、米国を訪問
スロベニア、イタリア、クロアチアの3か国外相会談の実施
- 経 済： スロベニア、米国と原子力協力に関する覚書に署名
- コロナ： スロベニアにおけるワクチン接種開始
- 社 会： ログリッチ選手、ヴェロ・ドール賞を受賞

政治

【内政】

●年金者党、エリヤヴェツ氏が党首に返り咲き 【5日、6日】

12月5日、与党第4党の年金者党(DeSUS)の党首選が行われ、エリヤヴェツ元党首がもう一人の候補者であったフェリクス・クロペ氏を146対71で破り、新党首に選出された。今回の党首選は、2020年9月に(地方出張の際に家族の滞在費等を自治体当局が負担した等の汚職疑惑が報じられた)ピヴェツ党首が党首の座を辞任したことを受けて開催されたもので、郵送により投票が行われた。党首選勝利後、エリヤヴェツ新党首は、「自分は、7回目となる大臣への就任などの地位やそれに似た野望のために党首に復帰するのではなく、来年DeSUSが創設30周年を迎えるから復帰するのである」と述べたほか、「本年起こっているあらゆる事にかかわらず、スロベニア政界において党が担ってきた場所に党を戻すことが我々の責務である。2020年1月に政界を引退した後、再び政界に戻ってくるとの決断は難しいものであったが、困難な課題を前にして、スロベニアは経験豊富な政治家を必要としていると確信している」と述べた。



エリヤヴェツ年金者党党首

(Photo: Nebojša Tejić/ STA)

●年金者党、連立与党から離脱【17日】

17日、DeSUSは、党役員会において、連立与党からの離脱及びエリヤヴェツ党首を首相候補とする提案を賛成多数で承認した。エリヤヴェツ党首は、DeSUSが連立を離脱する理由は、感染症の流行や個別の閣僚の仕事ぶりではなく、ヤンシャ首相が追求する政策が原因であると述べた。

DeSUSの連立与党離脱を巡っては、エリヤヴェツ新党首は、党首就任後、今後の党の活動につき同党所属の議会議員と数度にわたり協議を行っており、

同協議においては連立政権からのDeSUSの離脱を希望するエリヤヴェツ党首と、DeSUSは現政権に留まると考える議会議員との間で意見の隔たりが見られ、12月11日、DeSUS所属のポルナル議員は、仮にDeSUSが連立与党を離脱する場合、現在5名いる同党所属の議会議員の内の4名は(DeSUSを抜けて)独立議員として活動し、引き続き現政権を支持していく旨のステートメントを発表した。一方、エリヤヴェツ党首は、15日に影の内閣を構成する野党4党(マリヤンシャレツ・リスト(LMS)、左派(Left)、社会民主党(SD)、アレнка・ブラトゥシェク同盟(SAB))の党首と会談を行い、野党4党より、仮にDeSUSが野党4党に合流して現政権を打破できた場合は、エリヤヴェツ党首を次期政権の首相候補とする旨の提案を受けたことを明かし、近々DeSUS党内で連立離脱の是非に係る協議を行うと述べていた。

●ガントル保健大臣の辞任【18日】

18日、年金者党(DeSUS)所属のガントル保健大臣は、DeSUSが連立与党からの離脱を決定したことを受け、保健大臣を辞任する旨を発表した。同大臣は辞表の中で、「私は常に誠実に、責任を持って職務を全うするよう努めてきた。我々はともに重要な仕事を果たしたと確信している」と述べた。なお、ガントル保健大臣辞任により、当面の間はヤンシャ首相が保健大臣の業務も兼務する。

●エリヤヴェツ年金者党党首、政府不信任動議の提出を発表【22日】

先般連立与党を離脱した年金者党(DeSUS)のエリヤヴェツ党首は、現政権に対する不信任動議を近々提出予定である旨を発表した。同発言は、エリヤヴェツ党首が野党4党(マリヤンシャレツ・リスト(LMS)、社会民主党(SD)、左派(Left)、アレнка・ブラトゥシェク同盟(SAB))代表者との会合後に行った記者会見で述べたもので、エリヤヴェツ党首は、野党4党との間でエリヤヴェツ党首を首相候補とする旨一致したと述べた。これまでエリヤヴェツ党首は、(国民議会の定数90の過半数となる)議員46名の署名を得られたら自身が首相候補となる旨述べていたが、今回の発言により、いずれにしても不信任動議が提出されるとの様相を見せている。エリヤヴェツ党首は、十分な数の署名が集まることを期待すると述べつつ、「視界は良好であり、我々は(過半数獲得に)非常に近づいている」と述べた。

スロベニア産クリスマスツリー、 バチカンのサン・ピエトロ広場に登場

12月11日、スロベニアがバチカンに寄贈し、サン・ピエトロ広場に飾られたクリスマスツリーの点灯式が開催され、ロガル外相が参加した。

寄贈されたクリスマスツリーは、スロベニア南部のコチェウイエの原生林で育った樹齢75年のツリーで、スロベニアがバチカンにクリスマスツリーを寄付するのは1996年に続いて2度目となる。



(Photo: Catholic Press Agency)

クリスマスツリーは、ストローや木屑等のスロベニアの伝統的な装飾で飾り付けがされたもので、駐バチカン・スロベニア大使を以前務めたイヴァン・レベルニク氏により点灯された。

点灯式においてスピーチを行ったロガル外相は、「バチカンはスロベニアの独立を最初に承認した国のひとつであり、また、正式な独立前から当時のローマ教皇であったヨハネ・パウロ2世はスロベニアの独立に向けた活動を支持してくれた。クリスマスツリーの寄贈はスロベニア独立に際するバチカンからの支援に対する感謝の印である」と述べた。



(Photo: Ministry of Foreign Affairs of Slovenia, Catholic Press Agency)

【外政】

●松島大使、パホル大統領に信任状を捧呈【2日】

2日、松島大使は、パホル大統領に信任状を捧呈した。また、捧呈式の後、松島大使とパホル大統領は二国間関係につき意見交換を行い、これまでの良好な関係を確認するとともに、今後、更なる関係強化を進めていくことで一致した。



(Photo: Daniel Novakovič/ STA)

●スロベニア、ミラノに総領事館を設置【4日】

スロベニア外務省は、イタリアのミラノに総領事館を設置することを発表した。新たに設置されるミラノ総領事館は、ロンバルディア、ピエモンテ、エミリア＝ロマーニャ、リグーリア、ヴァッレ・ダオスタ等のイタリア北西部の州を管轄する予定。なお、同総領事館の設置により、既存のトリエステ総領事館の管轄地域も変更され、今後、トリエステ総領事館は、フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア、トレンティーノ＝アルト・アディジェ、ヴェネト等の北東部の州を管轄する。

●ヤンシャ首相、イスラエルを訪問【7日～8日】

8日、ヤンシャ首相はイスラエルを訪問し、ネタニヤフ・イスラエル首相と会談した。共同記者発表において、両首相はスロベニアの独立以降続く両国の良好で友好的な関係及び両国にとって競争上の優位性となるイノベーションの重要性を強調した。ネタニヤフ首相は、ヤンシャ首相に対して今回の訪問及び両国関係強化への尽力に謝意を表明し、ヤンシャ首相がEU以外の初の訪問先にイスラエルを選んだことが両国の友好関係を示していると述べた。また、同首相はヤンシャ首相に対して、スロベニアがヒズボラをテロ組織に指定したこと及び国際場裡におけるスロベニアからの支持に謝意を表明した。一方、ヤンシャ首相は、イスラエルは世界で最も革新的な国のひとつであり、スロベニアのモデルとなる国である旨述べた。その他、両者の会談では、シリア、イラク、イラン及び中東和平プロセス等についても意見交換が行われた。また、今回のヤンシャ首相訪問に際し、同行したツーデルマン経済開発・技術副大臣とアップルbaum・イスラ

エルイノベーション庁長官との間で共同宣言への署名が行われた。

なお、ヤンシャ首相はイスラエル滞在中、リヴリン大統領、アシュケナジー外相等のイスラエル要人と会談したほか、イスラエルのイノベーション分野の企業代表者やイスラエル・スロベニア商工会議所代表者等とも懇談を行った。



(Photo: Government of Slovenia/twitter)

●ロガル外相、米国を訪問【7日～8日】

ロガル外相は米国を訪問し、ポンペオ米 국무長官と会談を行った。両者は、最近より高いレベルに引き上げられたスロベニア・米国関係に満足の意を表し、二国間対話の新しい組織的な形態として、戦略対話の設置に合意した。また、経済関係について、両者は未開拓のポテンシャルが多く存在する旨指摘した。米国側は、コペル港の地政学的重要性を強調し、運輸ロジスティクス分野における機会拡大について言及した。両者はまた、両国が情報通信技術、デジタル化、人工知能において積極的なアプローチを取ることを確認した。その他、両者は三海域協力イニシアティブや環大西洋エネルギー協力パートナーシップ(P-TEC)を含む、地域フォーラム内での協力、スロベニアのEU議長国就任の準備状況、西バルカンを含む地域課題、ロシア及び中国との関係、中東情勢についても意見交換を行った。



(Photo: Robi Poredoš/STA)

●米国・スロベニア間戦略対話の実施【8日】

8日、スロベニア・米国外相会談において合意された両国の第一回戦略対話が開催された。第一回対話はスロベニア側からミューラー外務省政務局長、米国側からボイス国務省次官補代理が代表者となり行われた。また、スロベニア側はコショロク・インフラ副大臣、米国側はリーカー国務次官補代理も参加した。今回の第一回対話では、西バルカンのEU・NATO加盟プロセスに関する米国との協力、新型コロナウイルス流行時に欧米社会において外部により行われた偽情報拡散に関する問題、サイバーセキュリティ、エネルギー安全保障、インフラ及びロジスティクスにおける機会拡大、三海域協力イニシアティブ及び環大西洋エネルギー協力パートナーシップ（P-TEC）等の枠組みにおける協力を中心に議論が行われた。次の戦略対話は2021年前半に開催される予定。

●ブルドー・ブリュニ・プロセス首脳会合、再度延期【9日】

パホル大統領は、12月14日に開催予定であったブルドー・ブリュニ・プロセス首脳会合を延期する旨を発表した。当初、同会合は6月29日の実施が予定されていたが、新型コロナウイルスの流行の影響で12月に延期され、そして今回再び延期されることとなった。パホル大統領は、「年末には会合が実施可能となるぐらい感染状況が良くなっているであろうとの期待を持っていたが、その期待は実現しなかった」と述べ、2021年前半に同会合が開催できることを期待していると述べた。

●ロガル外相、イタリア外相とビデオ会談【10日】

10日、ロガル外相はディ・マイオ伊外相との間でビデオ会談を行った。両者は両国の友好関係を確認したほか、両国の少数民族コミュニティ（イタリアのスロベニア系住民及びスロベニアのイタリア系住民）の地位等に関する対話の重要性を強調した。また、イタリア及びクロアチアがアドリア海に排他的経済水域（EEZ）を宣言する予定であることに関し、両者はイタリアが同国のEEZの宣言手続についてスロベニアに情報提供する旨で一致したほか、イタリアは、この宣言に関し、海洋法に関する国際連合条約（UNCLOS）等の原則を尊重し、スロベニアとクロアチアの全面的な協力を得て行うことを保証した。両者は、全ての人々の繁栄のためのアドリア海、経済発展、連結性向上及びいわゆるブルーエコノミー分野における協力の重要性を強調した。その他、両者は欧州における新型コロナウイルス対策、EUの次期多年度財政枠組及び復興基金、不法移民問題、2021年後半のスロベニアのEU議長国の優先課題等についても意見交換を行った。

●スロベニア、イタリア、クロアチアの3か国外相会談の実施【19日】

ロガル外相は、イタリアのトリエステで開催されたスロベニア、伊、クロアチアの3か国外相会談に出席した。同会談は、アドリア海の共同管理について協議を行うもので、3者は地域の人々をつなぐ架け橋及び繁栄の源としてのアドリア海のビジョンを共有した。また、各外相は、アドリア海の包括的保護、連結性、経済発展に係る議論を3者会談において継続していくことで一致したほか、この目標達成に向け、3者は、政治及び専門家レベルにおける協力強化のためのメカニズムの設置を決定した。また、今回の外相会談後、共同宣言が発出された。なお、スロベニア側の発表によると、次の3者協議は2021年1月中旬に実施される予定。



(Photo: Ministry of Foreign Affairs)

経済

【経済一般、指標・統計】

●格付け機関、スロベニアの格付けを維持【12日、19日】

格付け機関スタンダード&プアーズ(S&P)は、スロベニアの格付けをこれまでの「AA-」で据え置き、見通しも「安定的」と発表した。スロベニア財務省は、「この格付けは、スロベニアが新型コロナウイルス流行による困難な状況にもかかわらず、長期的に安定した国であると評価されたものである」と歓迎のコメントを発表した。

また、19日には格付け機関フィッチも、スロベニアの長期信用格付けを「A(安定的)」で据え置く決定を行った。

●マクロ経済開発分析研究所による最新の経済見通し【23日】

政府系シンクタンクであるマクロ経済開発研究所(IMAD)は、2020年のスロベニアのGDP成長率の予測をこれまでのマイナス6.7%から若干上方修正を行い、マイナス6.6%とした。一方、2021年の予測については、これまでの5.1%から4.3%に下方修正した。同研究所は、新型コロナウイルス第二波では、サービス部門が大きな打撃を受ける一方で、貿易関連の部門はサービス部門ほど大きな影響を受けていないと説明したほか、厳しい疫学的状況が続いているため、2021年の第2四半期までに大幅な景気回復は見込まれないとした。

●国民議会、第7弾コロナパッケージを可決【28日】

28日、国民議会は、新型コロナの社会経済的影響を緩和するための第7弾「コロナパッケージ」関連法案を可決した。シリツェル財務大臣は、同法案による支援総額は5.5億ユーロで、主に企業による感染症対策、雇用維持及び新型コロナの流行期間において操業できなかった産業の存続を保障するものであると述べた。同法案では、企業の固定経費への補助金を従業員一人当たり最大2000ユーロ支給し、また各種融資スキームを提供する。また、年金受給者、学生、家族、農家等への連帯一時金、対象時期に生まれた子供一人当たりに対する一時金、新型コロナ患者に対応した学生に対する手当等も含まれる。

【企業、産業の動向】

●スロベニア、米国と原子力協力に関する覚書に署名【8日】

8日、訪米したヴルトヴェツ・インフラ大臣は、米国との間で民政原子力協力に係る覚書に署名した。米国側は、クリストファー・フォード国際安全保障・不拡散担当国務次官補が覚書に署名した。ヴルトヴェツ大

臣は、同覚書への署名はスロベニアのクルシュコ原発第2原子炉建設に係る計画においてウェスティングハウスに優遇措置を与えることを意味するものではないと述べた。同首相は「覚書はどの企業に対しても優遇措置を与えるものではない。クルシュコ原発第2原子炉建設の決定を下す前には、環境保全団体等が求める全ての許可の取得など多くのステップが必要である」と述べ、政治ではなく競争入札及び専門家により、どの技術及びどの企業が採用されるかが決められることになるだろうと述べた。また、同大臣は、自分は第2原子炉建設に賛成だが、まずは全ての前提条件が整う必要があると述べ、放射性廃棄物保管問題も前提条件のひとつであると述べた。

また、同大臣は、米側とは2026年に米国が導入を計画している小型モジュール炉についても協議を行ったと述べ、スロベニアには本件でサービスを提供できる多くの専門家がいると述べた。また、米側との協議では天然ガス供給に係る協力の可能性についても触れられ、ヴルトヴェツ大臣は、スロベニアとハンガリー間で新ガスパイプラインに関する協議を実施中であると述べた。その他、コペル港の戦略的重要性、欧州がロシア産ガスに依存していることに対する米国の懸念及び多様化の必要性、コペル＝ディヴァチャ間第二鉄道路線建設計画及び中欧諸国との高速鉄道路線を含むインフラプロジェクトについても意見交換が行われた。

●2020年FDI賞の発表【16日】

16日、スロベニア投資促進庁(SPIRIT)は、過去1年間に多大な成果を生み出し、スロベニア経済の発展に貢献した外国人投資家に対する「FDI Award Slovenia 2020」表彰式を開催した。2006年より毎年開催されている同表彰式は、本年はバーチャル形式で行われ、次の4社が受賞した。

●最優秀雇用主カテゴリー:

「Atlantic Droga Kolinska」社(食品飲料)

●グリーンカテゴリー:

「Belinka Perkemija」社(関西ペイント孫会社、漂白剤等の製造)

●クリエイティブカテゴリー:「TKK」社(建築資材)

●スマートカテゴリー:

「iSystem Lab」社(マイクロプロセッサ等の検査機器)

コスタニェヴェツSPIRIT長官代行は、「外国人投資家は、研究開発、新技術、新たな市場開拓だけでなく、雇用と付加価値を生み出すための重要な構成要素である。この賞は、スロベニアでビジネスと雇用を拡大し、創造的で革新的なスマートなソリューションを推進する最も成功した外国資本の企業に与えられる」と述べ、受賞企業を称えた。

今回、グリーン賞を受賞した「Belinka Perkemija」社は、1948年に創業し、当初は過酸化水素の製造に重点を置いていたが、今日では多様な分野で環境に優しい漂白剤および洗浄剤を提供している。2014年より、同社は、関西ペイントの子会社ヘリオス欧州グループの傘下に入った。2019年の売上は1780万ユーロ、利益は270万ユーロ。今回の受賞では、スロベニアにおける同社の持続可能な化学工業（グリーンケミストリー）の推進、エネルギー効率化、集中的なeコマースの導入等が評価された。

●エコ・ファンド、電気自動車向け補助金を削減【14日】

エコ・ファンドは、電気自動車を対象とした補助金を引き下げることを決定した。補助金引き下げは、近年、対象となる車両の価格が安くなっており、それに伴い対象車両の数が増加したことで、補助金支給が増加していたことが理由。今回の引き下げにより、補助金は車両価格の20%を超えてはならず、各車両に対する支給額は300～4500ユーロとなる。また、付加価値税、各種割引、バッテリーリースを含め価格が6万5千ユーロ未満の車両のみに適用される。

●シュタッドラー車製列車の運行開始【15日】

15日、公共交通機関の運行再開に伴い、近代的なシュタッドラー製（スイス）の列車が、リュブリャナ～カムニク間で運行を開始した。ヴルトヴェツ・インフラ大臣は、鉄道インフラの近代化の重要性を指摘し、今回の新しい車両の導入を歓迎した。メス・スロベニア鉄道代表によると、新しい車両は2022年までに導入予定の52台の内の一つで、全体でディーゼルエンジン列車21台、電気車21台、電気車ダブルデッカー10台が予定されている。すべての列車は、携帯電話とPCの充電ポイント、Wi-Fi、自動空調など、最新のIT技術をサポートしている。



(Photo: Daniel Novakovič/ STA)

●スロベニア鉄道、チェコ企業と戦略的パートナーシップ契約に署名【16日】

スロベニア鉄道は、チェコの「EP Holding」との間で、戦略的ロジスティクス・貨物協定に署名した。同協定の署名により、「EP Holding」はスロベニア鉄道の貨物部門である「スロベニア鉄道 Tovorni Promet」の株49%を取得する予定。2021年6月までに同協定が各種規制機関による承認される見込み。

●国営DRI社、マリボル空港の運営期間を延長【17日】

政府は、国営DRI社によるマリボル空港運営を2021年末まで延長することを決定した。マリボル空港に関しては、2017年に中国資本「SHS Aviation」社が同空港のリース契約を結んだが、同社が2019年1月に同契約の解約通知を行ったことを受けて、同年6月に政府は国営DRI社に一時的に空港運営権を移管していた。なお、先月（2020年11月）にはスロベニア政府はマリボル空港をスマートハブに変える新しい計画を発表している。

●コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設計画：国家審査委員会、中国企業による異議申し立てを却下【23日】

2020年10月に第1次入札審査結果が発表されたコペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設計画に関し、審査を通過しなかった中国企業が国家審査委員会に異議申し立てを行っていたが、今般、同委員会は同申し立てを却下した。同委員会は、その理由として、中国は公共入札に関するWTOの協定に署名しておらず、また、スロベニアを含めたEUとの貿易協定を締結していないため、中国企業は同入札への参加資格を有しないと説明した。本決定により、異議申し立てのプロセスは終了し、第1次審査を通過した企業は、2021年2月1日までに次の審査に関する書類提出が求められる。

中・東欧地域の革新的中小企業 「Hidden Champion」

スロベニアのブレッド経営学大学院 (Bled School of Management) と中・東欧経営発展協会 (CEEMAN) が、欧州復興開発銀行 (EBRD) 協力の下で作成した「中・東欧地域『Hidden Champions』調査報告書」が公表されました(※報告書の日付は2019年12月ですが、先般、完全版の報告書が発表されました)。

前回の2013年の報告書から約7年振りを経て、最新版が発表されました。



「Hidden Champion」とは、特定のニッチ市場において世界的または地域的にトップシェアを有する革新的な中小企業のことを指しています。今回の報告書では、以下の22か国の Hidden Champions が掲載されています(今回の報告書から追加された国はブルガリア、コソボ、リトアニア、モルドバ、モンテネグロの5か国)。

(調査対象国)

アルバニア、ベラルーシ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、クロアチア、エストニア、ハンガリー、カザフスタン、コソボ、ラトビア、リトアニア、モルドバ、モンテネグロ、北マケドニア、ポーランド、ルーマニア、ロシア、セルビア、スロバキア、スロベニア、トルコ、ウクライナ

今回の報告書で挙げられているスロベニアの「Hidden Champions」は10社で、本報告書の対象国の中で、スロベニアは「Hidden Champions」の数では11社が紹介されているポーランドに次いで、セルビア、ベラルーシと共に第2位となっています。

スロベニアの業種別の内訳では製造業が7社、情報通信が2社、科学技術が1社となっています。本報告書に挙げられているスロベニア企業は以下のとおりです。

【Akrapovič d.d.】

バイク及び車のチタン排気システム

【Atech Elektronika d.o.o】

バイオマス燃焼コントローラー

【Cosylab d.d. Control System Laboratory】

粒子加速器の制御システム、陽子線治療

【DOMEL d.o.o】

掃除機用モーター

【EKWB d.o.o】

DIY 液体冷却システム

【Euro Plus d.o.o】

製造業・サプライチェーン向けラベルソフトウェア

【Hidria Holding d.o.o】

内燃機関用ディーゼル低温始動システム

【Instrumentation technologies d.d】

加速器のビーム粒子位置測定装置

【POLYCOM Škofja Loka d.o.o】

車両用ガススプリング、熱可塑性物質と金属のハイブリッド製品

【Tafjun Planina】

ロギングウィンチ、薪処理機

報告書は以下の EBRD のリンクから入手が可能です。

(EBRDリンク)

<https://www.ebrd.com/what-we-do/economic-research-and-data/cse-economists/hidden-champions.html>

新型コロナウイルス関連情報

●12月31日時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【31日】

12月31日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計122,025名で、死者は計2,704名となっている。スロベニア国立公衆衛生研究所が発表している31日時点での地域別感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	28,923
ドレンスカ・ベラクライナ地方	9,783
サヴィンスカ地方	16,848
ポドラウスカ地方	19,046
ゴレンスカ地方	13,713
ポムルスカ地方	8,974
オバルノ・クラシカ地方	3,796
ゴリシュカ地方	4,446
コロシュカ地方	5,223
プリモルスコ・ノトランスカ地方	2,565
ポサウスカ地方	4,835
ザサウスカ地方	3,222
その他調査中	651

●スロベニアのワクチン接種戦略【3日】

3日、政府は、スロベニアにおけるワクチン接種に関する戦略文書を承認した。同戦略文書は、欧州委員会の戦略に沿うものであり、健康保険に関係なく、スロベニアの全ての居住者が予防接種を受けられるようにすることを目的としており、第1フェーズでは国内約20か所の病院で接種を実施し、その後、第2、第3フェーズでは地域の保健センター、選定された診療所等へと接種場所を拡大する予定。また、同戦略は接種対象者の優先リストを定めており、最初の投与は、高齢者向けの介護施設といった最も脆弱なグループを対象とし、その余剰分は医療機関の従業員に提供される。その次の対象グループは、慢性疾患を持つ患者で、60歳以上の者と続く。最終的には、スロベニア国内全てに予防接種が公平に行き渡るようにする。保健省は、2021年1月前半には少なくとも2つのメーカーからのワクチンが利用可能になると見込んでおり、スロベニアは、5万回分のワクチンの受領を予定していると述べた。同ワクチンの接種には、電子申請を利用することとしており、対象者は健康状態や年齢に応じてワクチンが割り当てられ、接種予定日を受け取るほか、予防接種証明書の印刷等も可能となる。専門家によれば、望ましい効果を得るために、人口の少なくとも60%がワクチン接種することが必

要であるため、同戦略はワクチンの安全性と有効性について国民に知らせることに重点を置いている。

●スロベニア、世界で最も死亡率の高い国に【4日】

スロベニア通信(STA)は、12月4日時点でのスロベニアにおける新型コロナウイルスによる死者数は合計1653名に上っており、いくつかの世界的なサイトによると、現在スロベニアは世界で最も新型コロナウイルスによる死亡率が高い国となっていると報じた。ニューヨークタイムズのトラッカーでは、12月4日時点におけるスロベニアの過去7日間の人口10万人あたりの1日の平均死者数は2.4人で、ブルガリアの2.0人、ハンガリーの1.6人を上回り、世界で最も高い死亡率となっている。また、人口100万人あたりの死者数を発表している「Our World in Data」トラッカーでも同様の数字が出ている。さらに、10月中旬以降、スロベニアでは大幅な超過死亡(excess deaths)が記録されている。11月9日から15日の週には(新型コロナウイルスによる死者も含めて)730名が死亡し、2018年の同時期の死者数404名、2019年の同時期の死亡者数416名をそれぞれ大幅に上回っている。春先の第一波の際には超過死亡は過去5年と比較して大幅な変動はなかったが、第二波では10月12日を境に超過死亡が増加し続けているとのこと。

●リュブリャナ空港における検体検査の開始【16日】

リュブリャナ空港は、同空港内で新型コロナウイルス検査が可能となった旨のプレスリリースを発表した。リュブリャナ空港における新型コロナウイルス検査は、任意であり、費用は検査を行う者の自己負担となる。検査は全ての乗客及び検査証明を必要とする全ての者が実施可能。空港での検査価格は110ユーロ(PCR検査、鼻咽頭スワブ検体)で、検査は事前予約制となる。予約に係る連絡先及び必要情報は以下のとおり。

連絡先: +386-1-436-8193 へ電話、又は testiranje@zzzdravje.si にメール連絡

予約連絡受付時間帯: 月～木曜日の午前8時から午後6時及び金曜日の午前8時から午後3時

必要情報: 氏名、生年月日、住所、保険番号、E-mail アドレス及び携帯電話番号

支払いは空港内のインフォメーションデスクで行い、検査実施の際にはその支払い証明書を提示する必要がある(支払い方法はカードのみ: Maestro、MasterCard、Visa、V Pay、Karanta、Diners)。検査結果は4～6時間後に判明。検査結果はスロベニア語及び英語で E-mail により通知される。陽性結果が出た場合は、公衆衛生研究所にも通知がなされる。検体検査は旅客ターミナル内の個別エリアで行われる

予定。検査場についての詳細についてはリュブリャナ空港ホームページ、また、旅客ターミナル内のインフォメーションデスクにおいても情報提供を行っている。

●大規模抗原検査の実施【22日～24日】

22日、国内各地において、新型コロナウイルスの任意の大規模抗原検査が開始され、首都リュブリャナ、ツェリエ、マリボル、ノヴォ・メスト、ノヴァ・ゴリツァ、ムルスカ・ソポタ、スロベン・グラデツ、コペル、クラニ、ヴェレニェ、プトウイ、レナルト、セウニツァ等の各都市に検査場が設けられた。検査は無料で、抗原検査による結果は、PCR検査の結果と同等に扱われる。初日の22日には多くの人が検査に訪れ、リュブリャナでは約2時間待ち、ツェリエでは約1時間待ちとの状態となった。



(Photo: Daniel Novakovič/ STA)

●スロベニアにおけるワクチン接種開始【27日】

26日、ファイザー／ビオンテック社製の新型コロナウイルスワクチン9750回分がスロベニアに到着した。27日から同ワクチンの接種が開始され、介護施設入居者、介護施設職員、医療機関職員等がワクチンを接種した。国立公衆衛生研究所のクレク所長は、ワクチンの入手状況次第としつつ、2021年7月までに国内人口の6割にあたる約120万人がワクチンを接種することになると述べた。



(Photo: Bor Slana/ STA/UKOM)

社会・文化・スポーツ

●ログリッチ選手、ヴェロ・ドール賞を受賞【3日】

自転車競技のプリモジュ・ログリッチ選手が、2020年のヴェロ・ドール賞を受賞した。同賞は、「黄金の自転車」を意味し、フランスのレキップ紙の姉妹誌であるヴェロ誌が毎年発表しているもので、その時に最高のパフォーマンスを発揮したとされる選手に授与される賞。ログリッチ選手は、スロベニア人として初めて同賞を受賞した。



(Photo: dpa/STA)

●シモニティ文化大臣、新型コロナウイルスに感染【30日】

文化省は、シモニティ文化大臣の新型コロナウイルス陽性が確認されたと発表した。同大臣は、新型コロナウイルスの軽い症状が見られている。また、文化省は、シモニティ大臣に近い職員は、国立公衆衛生研究所及び専門家の指示・勧告に従い行動していると説明した。シモニティ文化大臣は、10月23日のロガル外相、11月4日のヴィズヤク環境・空間計画大臣に続き、新型コロナウイルス陽性が確認された3人目の閣僚となる。



(Photo: Daniel Novakovič/ STA)

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●新型コロナウイルス:引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関する国内及び出入国規制等についてまとめたものを公開していますが、そちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページリンク】

https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00037.html

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することが出来ます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en/Main>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

●政府(英語): <https://twitter.com/govslovenia>

●政府(スロベニア語): <https://twitter.com/vladars>
(英語版と若干内容が異なります。)

●外務省: <https://twitter.com/mzzrs>

(主にスロベニア語)

●保健省: <https://twitter.com/minzdravje>

(主にスロベニア語)

【広報文化班からのお知らせ】

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>